



キャッシュレス時報

CASHLESS JIHO

長内 智

(株)大和総研
金融調査部
主任研究員

第1回 急速に強まるキャッシュレス化の潮流をよむ

はじめに～「現金大国」脱却への道

近年、店舗で買い物や外食をする際、現金を使わずにクレジットカードや電子マネーで支払う人が増えてきました。こうしたキャッシュレス決済の利用拡大は、日本のみならず世界的な潮流となっています。

国際的にみると、日本は、キャッシュレス決済の利用率が低く、「現金大国」といわれることが少なくありません。ただ日本でも、キャッシュレス社会実現に向けた取組みが加速しており、2019年は、「キャッシュレス元年」と呼べる年となりました。

しかし、2020年に入り、新型コロナウイルス（以下、「新型コロナ」といいます）のパンデミックという未曾有の危機によって、消費者の日常生活や消費行動は大きな影響を受けています。

例えば、新型コロナの感染爆発を防ぐため、政府が外出と営業の自粛要請を行ったことにより、ネット通販をはじめとする「巣ごもり消費」が活発化しました。そして、消費者がその支払を行う際には、大抵の場合、キャッシュレス決済が利用されています。

それでは、日本のキャッシュレス化の動きは、今後も拡大していくのでしょうか。本連載では、日本のリテール決済手段の現状と課題を多面的な視点で整理し、海外の最新動向の紹介も踏まえつつ、日本のキャッシュレス化の針路を展望したいと思います。

キャッシュレス決済の興隆

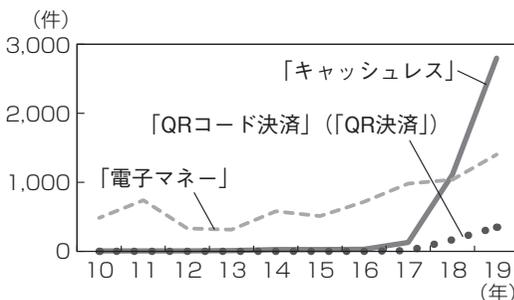
●2019年の世相を示す流行語

日本国内において「キャッシュレス」という言葉が広く利用され始めたのは、ここ数年のことです。こうした状況については、キャッシュレス関連の単語を含む新聞の記事件数からうかがい知ることができます（図表参照）。

「キャッシュレス」を含む記事件数は、2017年まで非常に少なかったものの、2018年に急増し、翌2019年に増加幅を一層拡大させました。「電子マネー」と「QRコード決済」を含む記事件数も増えていますが、それらとは比べ物にならない急激な増加を示しています。

実際、世の中を見渡すと、2019年は「キャッシュレス」という単語が至るところで使われ、一大流行語の様相を呈していました。

【図表】キャッシュレス関連の記事件数



(注) 各単語で記事検索を行って表示された記事件数。全国5紙(読売、朝日、毎日、産経、日経)の合計。(出所) 日経テレコンより大和総研作成



●ポイント好きで賢い消費者

それでは、なぜ日本でキャッシュレスが急に注目されるようになったのでしょうか。この主な背景として、民間の決済事業者が打ち出した大型キャッシュバック・キャンペーンと、政府が新たに導入したキャッシュレス決済のポイント還元制度が挙げられます。

日本の消費者は、決済手段を選択する際にポイントや割引など金銭的なメリットを重視する傾向が強いです。決済手段を比較して、できるだけお得に買い物をするという点では、「賢い消費者」ということもできるでしょう。

民間と政府のキャッシュレス促進策の恩恵は、そうした消費者にとって魅力的なものとなり、現金払いからキャッシュレス決済に切り替えようという動きが広がったのです。

そして振り返ってみると、2019年は、まさに「キャッシュレス元年」と呼べる重要な年となりました。

●新型コロナと巣ごもり消費

キャッシュレス決済は、2020年に入っても利用拡大が続き、今後、興隆期へ移行していくことが期待されます。

ただ、政府が新型コロナの感染爆発を防ぐために緊急事態宣言を出し、外出と営業の自粛を要請したことで、消費者を取り巻く環境に変化が出ている点に少し留意が必要です。

消費者は、外出自粛の下、旅行や娯楽施設に出かけず、外食も控えています。その結果、自宅で過ごす時間が大幅に増加し、ほぼ必然的にネット通販や動画配信サービスなど「巣ごもり消費」が活発化することとなりました。

巣ごもり消費の増加は、消費者の支払の場を店舗での「対面」から「ネット」へとシフトさせ、そこではキャッシュレス決済が主要な決済手段となります。

このように、今回の外出自粛要請には、自宅でのキャッシュレス決済の利用拡大を促すという側面もあるのです。

まず知りたい3つのポイント

2019年の一大流行語となった「キャッシュレス」について、非常に多くの人に関心を持っていると思われます。しかし、実際には、まだキャッシュレス決済を本格的に始めていない人も少なくありません。そもそも「今さらキャッシュレス決済を始めるべきなのか」、「何からどう始めればいいのか」という声も聞かれます。

ここでは、そうした人向けに、まず知っておきたい3つの基本ポイントを紹介します。

第1に、キャッシュレス決済をしっかりと選べば、現金払いよりお得に買い物をする事ができるという点です。これは、ポイントの付与や割引などが存在するためです。そうしたメリットを重視する人は、今からでも前向きに利用を検討したらいいと思います。

第2に、決済手段が数多く存在するため、その中から自分に合ったものを選ぶ必要があるということです。ここで代表的な決済手段を3つ挙げるとしたら、①クレジットカード、②鉄道会社等が発行する電子マネー、③スマホ決済、となります。すでに、①を保有している人は多いと思われるので、その利用回数を増やすことが最も簡単な第一歩です。

第3に、店舗での支払において、現金払いよりキャッシュレス決済のほうが手間や時間のかかる場合が結構あるという点です。例えば、ランチの支払で若干待たされることが挙げられます。キャッシュレス決済によって支払がものすごく便利になると思って始めると、やや期待外れの結果に終わってしまう可能性もあります。

Profile

長内 智 (おさない さとし)

(株)大和総研 金融調査部 主任研究員

2006年早稲田大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学、大和総研入社（金融資本市場担当）。08～10年大和証券に転出（海外金融市場担当）。12～14年に内閣府参事官補佐として経済財政白書の執筆、月例経済報告などを担当。14年大和総研に帰任（日本経済担当）、18年より現職。